

平均正答率が10%以上向上した問題と考察

算数

領 域	問 題 番 号	出題のねらい	正答率の比較			
			46年度 正答率 (A)	52年度 正答率 (B)	差 (B-A)	
① 数と計算の 意味	1	分数の乗法の 意味	19.4	39.2	19.8	
	2	分数の除法の 意味	52.1	64.5	12.4	
	3 (1)	逆数による乗 法と除法の関 係	55.4	78.7	23.3	
			(2)	19.8	71.5	51.7
	4 (1)	整数、小数の 乗除を分数に まとめる	64.4	77.0	12.6	
			(2)	47.9	65.1	17.2
	5 (3)	整数、小数と 分数の関係	55.4	85.1	29.7	
	6	数と数直線上 の点	66.0	94.8	28.8	
	7	四則計算の可 能性	67.4	84.2	16.8	
	8	加法、乗法の 法則理解	41.0	60.8	19.8	
9 (1)	2つの数量の 割合 (比の値)	62.0	84.9	22.9		
		(2)	43.2	68.7	25.5	
② 計 算	1 (1)	分数の乗法計 算	74.0	89.1	15.1	
			(2)	77.2	89.6	12.4
			(3)	68.4	79.5	11.1
			(4)	71.6	84.2	12.6
	2 (2)	分数の除法計 算	74.3	87.6	13.3	
			(3)	69.6	82.4	12.8
			(4)	67.1	80.8	13.7
	3 (1)	分数の乗除混 合計算	67.4	79.7	12.3	
			(2)	66.9	77.6	10.7
			(3)	60.9	74.0	13.1
(4)			58.8	69.7	10.9	
4 (2)	かっこのある 分数計算	62.9	75.1	12.2		

46年度と比較して、平均正答率が前回より伸びを示した小問数は71問で、全体の小問数にして88.8%の高い率を示している。また10%以上向上した問題数を各領域別にみると次の表のようになる。

領 域	小問数	10%以上上 がった問題数	%
① 数と計算の意味	15	12	80.0
② 計 算	15	12	80.0
③ 図 形	15	14	93.3
④ 量 と 測 定	15	3	20.0
⑤ 数 量 関 係	20	6	30.0
全 体	80	47	58.8

この表からも分るように、①、②、③の3つの領域での正答率が大きな伸びを示しているのに対して、④、⑤の領域では正答率の伸びが小さいことを表している。とくに④の図形領域では15問中14問が10%以上の向上を示していることから、46年度と比較して指導の成果が大きく表れていることを意味している。

① では、3 (1)、(2)の分数の除法を乗法に直す問題、5 (3)の整数と分数の関係、6の負の数を数直線上に対応させる問題、9 (1)、(2)の比の値から整数の値を求める問題、等々が着実な伸びを示している。

② では、小問ごとの伸びがほとんど変わらない。分数の乗除法のそれぞれの基本的な問題の伸びと、乗除混合算やかっこのある分数計算の伸びがほとんど変わらないことは、分数計算力が着実に伸びていることを示しているように。